

2022年11月11日 第3407回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 前田 会長
<斉 唱> 「我等の生業」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
<ゲスト紹介> *一般社団法人Fマリノススポーツクラブ
地域連携本部・広報/ホームタウン担当課長 牧野内 隆 様
<会長報告> *第6回第1グループ会長・幹事会報告
・12月25日～インターアクト国内研修について
・姉妹友好クラブ及びクラブ同好会のアンケートについて
・ホームページの改定とその利用について
・12月10日社会奉仕及び国際奉仕委員長の研修会について
・2023年1月～職業奉仕月間について 卓話者派遣の実績について
・出席報告と会員数について*地区戦略計画委員会からのアンケートについて
*ガバナー事務所より
国際ロータリ大会の登録料案内（オーストラリア：メルボルンで開催）
12月15日までは475ドル、来年の3月31日までは575ドル、
4月1日以降675ドルです。
<委員長報告> *VTT特別委員会 E.Rogers 委員より活動報告
*佐久間カウンセラーより米山クリーンキャンペーン 報告
<幹事報告> *2022-23年度収支予算書について
<出席報告> *出席委員会 加賀本委員より11月11日の出席報告

| 会員数 | 出席対象者数 | 出席数(ZOOM出席数) | 欠席数 | メックアップ数 | 出席率 |
|------|--------|--------------|-----|---------|--------|
| 116名 | 105名 | 71名(14名) | 34名 | 12名 | 78.30% |

<ニコニコ報告>

- ・三 役 一般社団法人Fマリノススポーツクラブ 牧野内隆様、よくお出でくださいました。卓話楽しみにしております。
- ・大野 健、比 護、児 玉、梁 井、杉 浦、岡田 隼、立 石、福 西、大石、松本 朋、八 巻、木 村、前 川、永 井、畑、小 平、濱 田、田 村、勝 間、Enora、鈴木 切、上 林、小佐野、徳 永、田 邊、根 岸、南、高 橋、加賀本、小山 隼、小保内、二 瓶、齋藤 眞、波 島 各会員
一般社団法人Fマリノススポーツクラブ 地域連携本部・広報/ホームタウン担当課長 牧野内隆様、横須賀RCへお越しくださり、ありがとうございます。本日の卓話どうぞ宜しく願います。また、横浜F・マリノスは2022 J1リーグ3年ぶりの優勝おめでとうございます。
- ・加藤 健、藤 村、中村 健、波 島 各会員 11月18日は夜間特別例会にて、奉仕の基金コンペティションを開催します。初めての試みですがより良い事業になるよう皆様のご協力も願います。
- ・7番テーブル江沢マスター、渡邊サブマスター
昨日の7番テーブルミーティング、三役・SAAにもご出席いただき、テーブルの皆様と楽しく過ごすことが出来ました。♪トンネル抜ければ～♪
- ・前 田、小林 健、小山 隼、高 橋、澤 田、兼 城、鈴木 豊 各会員
昨夜7番テーブルミーティングをホテルニューポートヨコスカ サルースにて開催しました。江沢マスターの軽快な歌に始まり、美味しいお料理、お酒を堪能しました。江沢マスター、渡邊サブマスターありがとうございました。

- ・長尾 会員 11月10日(木) 7番テーブルミーティングをホテルニューポートヨコスカ1階サロンスで開催いただきありがとうございました。
- ・石田、濱田、野坂、角井、兼城 各会員 今日は11月11日、1並びの日です。何となくいい一日になりますように。
- ・中村 備 会員 来週火曜日(11月15日) J:COMチャンネル12:30~のLiveニュース生放送に渡邊磨会員が出演します。ワーキングスペーススクインズウエイの紹介です。是非ご覧ください。
- ・先週11月4日にお越し戴いた相澤パストガバナーよりクラブからの卓話の謝礼をニコニコにご寄付いただきました。今日のニコニコに入れさせていただきます。

<卓 話> 「プロスポーツクラブが地域にある意味」
～ F・マリノス練習場の久里浜移設に向けて ～

一般社団法人F・マリノススポーツクラブ
地域連携本部・広報/ホームタウン担当課長 牧野内 隆 様

皆さん、こんにちは、一般社団法人F・マリノススポーツクラブ地域連携本部の牧野内 隆と申します。先ほども少しご紹介頂きましたが、F・マリノスは2022年度Jリーグで優勝することができました。暖かいご支援ありがとうございました。来年1月から、当クラブの練習場が久里浜へ移転となります。引き続きよろしくお願いたします。

本日はサッカーの要素も含め、その地域における事業についてお話しをさせて頂ければと思いますので、宜しくお願い致します。まず初めに自己紹介をさせていただきます。年齢は37歳で2009年から社会人生活をスタート致しました。最初は広告代理店に入社し、そこでビジネスの基礎を学ばせて頂きました。その後、2018年にF・マリノスに入社し、それ以降、地域の活動等の担当をしております。なお、2021年に組織変更があり、現在は、一般社団法人F・マリノススポーツクラブ地域連携本部に出向しております。基本的に行っていることはF・マリノス時代と変わらず地域の皆さんと向き合っております。出身は名古屋で、神奈川県横須賀市とはあまり縁もゆかりもなかったのですが、今ではほぼ毎週のように横須賀に足を運んでおります。

本日お話ししたいことは、2つございます。1つ目はJリーグクラブと地域との関係について、2つ目は、横須賀市とF・マリノスのこれからについてお話をさせていただきます。

初めに、Jリーグと聞いて皆さん、何が思い浮かびますか？おそらく皆さんが思い浮かべることは、選手の熱いプレーですとか、スタジアムでの熱気等かと思いますが、1つ知って頂きたいのは、Jリーグは実は試合だけではないということです。各クラブがそれぞれの地域で様々な活動を行っております。Jリーグでは、Jクラブの本拠地を【ホームタウン】と呼んでいます。Jリーグ規約にはJクラブはホームタウンと定めた地域でその地域社会と一体となったクラブ創りを行いながら、サッカーの普及、振興に努めなければならないことが記されています。つまりホームタウンとは本拠地占有権、興行権の意味合いの強いフランチャイズとは異なり、Jクラブと地域社会が一体となって実現する、スポーツが生活に溶け込み、人々が心身の健康と生活の楽しみを享受することができる街を意味しております。



Jリーグの規約の抜粋となりますが、Jリーグ規約第24条Jクラブのホームタウン第2項には、Jクラブは、それぞれのホームタウンにおいて、地域社会と一体となったクラブ創り（社会貢献活動を含む）を行い、サッカーをはじめとするスポーツの普及及び振興に努めなければならないと定義されています。我々、F・マリノスも横浜市、横須賀市、大和市をホームタウンとし、それぞれのホームタウンで試合をするだけではなく、様々な活動を行っております。試合時には我々クラブが主役となり皆さんから熱い声援を頂いておりますが、それ以外の日には地域の皆さんを主役として、我々クラブはそのホームタウンの皆さんと一緒に地域づくりに参画させて頂きたいと考えております。Jリーグの試合はリーグ戦、カップ戦、天皇杯等いろいろな大会がありますが、年間の試合数は多くて50試合程度です。そのうちホームタウンで行えるホームゲームは半分ほどですので、20試合前後となります。ですので、残りの300日以上を地域の皆さんと一緒に、サッカーだけではなくてあらゆるところで一緒させて頂きたいと思っている次第でございます。そういった活動をホームタウン活動と呼んでおり、F・マリノスでは私とその活動の担当をさせて頂いております。活動の中で一番大きい柱となる部分はやはりスポーツ普及振興です。横須賀市でも展開をさせて頂いておりますが、コーチが小学校にお邪魔させて頂いて体育の授業等を活用し子供たちにサッカーを教えることや地域の様々なグラウンドをお借りしてサッカー教室開催をしております。その他、健康促進や環境保護の啓発、被災地への復興支援、多様性・多分化解理解に関わる活動、街づくり、等々あらゆるジャンルでホームタウン活動を行っております。今このホームタウン活動がJリーグ全体では1つステージが上がっておりまして、昨今よく耳にする、SDGs、ESDなどの観点も含めて、Jリーグが地域のために何ができるのかということを含めて、今一度、問い直しております。そして、Jリーグがより社会と連携すること、Jリーグ社会連携、通称「シャレン」という概念を立ち上げました。シャレンの概念について動画がございますので、ご覧頂ければと思います。

<映像鑑賞>

今の動画でもありました通り、サッカーの試合の映像や選手の熱いプレーなどはなく、大事なのは地域の様々な方々との繋がり、主役は地域です。共通の課題解決のために、我々Jクラブが持つアセットを使い、地域の皆様と連携し、それぞれの強みを出し合って共に未来を創っていくことを私たちの描くシャレン活動＝（イコール）Jリーグ社会連携活動としております。例えば、我々の持つリソースとしては、スタッフ、スタジアム、リーグ、クラブの構造、多くのファンやサポーター、発信力、繋ぐ力等々、スポーツのエモーションを使って地域にインパクトを与え、行政、企業の皆さん、学校、NPO、住民、あらゆる方々と手を取り合って良い地域を創っていきたくと考えております。こういった活動がJリーグ全体（全58クラブ）それぞれで取り組んでいる、ホームタウン活動及びシャレン活動の概要となります。

F・マリノスのシャレン活動の事例をご紹介させて頂くと、ホームタウンテイクアウトマップというものをやらせて頂きました。コロナが流行し始めた2020年4月頃に最初の緊急事態宣言が出まして、街から人がいなくなってしまう中でテイクアウトやデリバリーができる飲食店の情報をまとめ、クラブから発信をさせて頂いた活動となります。方法と致しましては、まず情報元となるテイクアウト実施店舗さんや街で飲食店をご利用されているサポーター、市役所の皆さんからの情報を頂きました。合わせて既存の商店街のマップなども活用させて頂き、地域の皆様の力を借りて、600店舗近くのテイクアウト情報が掲載されるテイクアウトマップをクラブの発信力を使って世の中に出していくことで、より多くのお客様に使って頂くという試みをさせて頂きました。重ね重ねになりますが、こういった形でJリーグは試合だけではなく様々な活動にも力を入れていることをご理解頂けますと幸いです。

続いて、横須賀市と横浜F・マリノスについてお話を致します。横須賀市には2005年からF・マリノスのホームタウンになって頂いております。それまでも追浜にある日産工場下部組織であるアカデミーや久里浜のリーフスタジアムでのスクール事業展開させて頂いております。とても縁の深い街だと認識しております。

横須賀市での活動をいくつかご紹介させて頂きます。直近の活動と致しましては海洋プラスチックによる環境対策について取り組みを致しました。実は、サッカーグラウンドの人工芝が海洋プラスチックの多くのウエイト占めております。私たちは普段人口芝のグラウンドをたくさん使わせて頂いていることから、横須賀リーフスタジアムなどのグラウンドの人工芝片を拾い集め、マーカーコーンなどの運動器具に再資源化し、公共

施設や学校に寄贈する取組みを実施致しました。その取組みは、朝日新聞、タウンニュースにも記事が掲載されました。また、その他の活動として先ほどもお伝えさせて頂きましたが、サッカー教室を学校で行わせて頂いている中で今年と去年に関しては企業版ふるさと納税の座組みを使って開催させて頂き、F・マリノスが持っている企業とのネットワークから寄付先を探して、その企業さんに横須賀市に寄付をして頂き、そのお金を原資にF・マリノスのサッカー教室を展開しました。小学校に訪問する際にはスポーツ用品を、例えばサッカーボール、ミニボール等の子供たちの体づくり、運動づくりに寄与するような品物を提供して授業も展開させて頂いております。

また、その他の活動として久里浜商店街でF・マリノスの選手とファン、サポーターが集り、総勢50名ほどで清掃活動を実施し、選手とファン、サポーターがコミュニケーションを取りながら楽しく清掃活動を致しました。こういった形で横須賀にスポーツチームが入ることで、これまで横須賀に訪れたことがなかった方々が横須賀の街の魅了を知るきっかけにも繋がればと思います。その他にも、横須賀市ではF・マリノスのキャラクターデザインがされた原付バイクのナンバープレートが導入されたり、記念艦三笠をF・マリノスのイメージカラーであるトリコデザインでライトアップをして頂いたりとチームへの応援ムードを高めて頂いております。

来年の1月にはF・マリノスの練習場が整備されます。天然芝2面、フットサルコート1面を持ったグラウンドでフルオープンするのは5月になりますが、1月から天然芝1面とフットサルコートがオープンとなり、このグラウンドにF・マリノスの選手たちもやってきて、そこで毎日練習をする予定でございます。今、このグラウンドのオープンに向けて、横須賀市のスポーツ振興課の方々と様々な施策を考えさせて頂いておりますが、ただそこがF・マリノスの選手が練習をするだけの場所ということではなくて、その練習場が横須賀地域において、スポーツ文化を養成するための拠点になることを願っております。そして、横須賀市にとっても市民のスポーツへの関心向上や健康増進、横須賀への誘客にも繋がり、横須賀市の振興にも貢献したいと考えております。

この久里浜の練習場のオープンを機にもっともっと横須賀地域の皆さんに近づいていきたい。そして、横須賀エリアにおいてもファンをたくさん作っていききたい、そう強く考えております。練習場ができることで小さい頃からそこにいる子供たちがF・マリノスに触れて頂き、サッカーを好きになってもらい、もしかしたら、そこからF・マリノスの選手、ひいては日本代表選手が出ることがあれば、我々F・マリノスもとても嬉しいですし、誇らしいなと思います。こういった形でぜひ皆さんと一緒に地域社会の課題を解決しながら、横須賀地域の振興に貢献ができればと考えておりますので、引き続き宜しくお願い致します。少々駆け足となりましたが、以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 岡田 圭太